

静岡

静岡県は、県東部地域を中心に医療健康関連産業の振興・集積を図る「富士山麓先端健康産業集積（ファルマバレー）プロジェクト」を推進している。

近年は、先端技術産業や研究機関等の立地が盛んであり、特に、医療産業は、全国トップクラス（医療機器生産金額全国1位、医薬品生産金額全国2位、合計金額全国2位）に成長した。

県は、ファルマバレープロジェクトの更なる発展のため、プロジェクトの中心地域である東部12市町を対象地域とした「ふじのくに先端医療総合特区」を国に申請し、昨年12月、内閣総理大臣から「地域活性化総合特別区域」の指定を受け、平成24年2月、国に1回目の総合特別区域計画を提出した。

総合特別区域（以下総合特区）とは、産業の国際競争力の強化及び地域の活性化に関する施策を総合的かつ集中的に推進することにより、日本の経済社会の活力の向上及び持続的発展を図る

ことを目的として、平成23年8月に施行された総合特別区域法に基づき創設された制度である。総合特区の指定を受けると、国から規制緩和の特例措置、財政、税制、金融上の支援措置が受けられる。全国で「国際戦略総合特区」7地域、「地域活性化総合特区」26地域が指定された。

「ふじのくに先端医療総合特区」は、2つの目的を掲げている。1つは、日本人の死亡原因の第1位であるがんの早期発見技術を確立するため、静岡がんセンターを中心に革新的ながん診断装置・診断薬の研究開発の拠点化を進め、国際競争力を有する製品を迅速に世界へ提供することにより、がん医療を飛躍的に発展させること、もう1つは、優れたものづくり力を持つ地域企業の医療健康分野への参入を促進することにより、産業クラスターを形成し、地域企業の経営基盤の強化と雇用の創出を図ることである。

県は、総合特区を活用して、平成21年に1,956億円だった県内医療機器生産額を平成26年に4,000億円にすることを目標としている。これにより、2,200億円の経済効果と5,000人の雇用創出が期待されている。

これらの目標を達成するため、県は国に対して、医療機器製造販売業許可の取得に必要な総括製造販売責任者の資格要件の緩和、研究開発費の助成制度の優先的採択、特区内に新たに立地した企業に対する法人税の減免措置、企業の研究開発費の税額控除の拡大などの特例措置や支援措置を提案した。このうち、医療機器等の研究開発費助成金と研究開発や設備投資のための銀行借入に対する利子補給制度が国から認定された。

今後は、引き続き、県が提案した規制緩和の特例措置やその他の支援措置の実現に向けて、国と協議を進めていく。

さらに、追加的な特例措置や支援措置の要望・提案に向けて、特区内の市町、商工会議所・商工会、企業や金融機関から積極的に地域の声を集めている。



特区指定書とふじのくに先端医療総合特区地域協議会の会議風景

## 「ふじのくに先端医療総合特区」が始動

神奈川

2013年の世界文化遺産登録を目指し、政府は今年1月、「武家の古都・鎌倉」（神奈川県）と「富士山」（静岡県、山梨県）の推薦書を仏・パリの国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出した。

「鎌倉」は、「古都京都の文化財」などとともに第一グループとして暫定リスト入りしてから20年を経ての推薦。今年の夏以降、ユネスコ諮問機関の国際記念物遺跡会議（イコモス）の現地調査や評価・勧告といった関門が残されているが、鎌倉だけでなく近隣市からも観光活性化の期待が高まっている。

「鎌倉」の登録エリア（約2,000ヘクタール）は鎌倉をはじめ横浜、逗子の計3市にまたがり、鶴岡八幡宮、円覚寺、鎌倉大仏などの社寺や名越切通、和賀江嶋など10件の構成資産で構成。推薦理由として、①武家政権が発足し、茶や禅などの武家文化が創出された物証であること、②三方を囲む尾根部と一体となったまれな政権所在地の類型であることなどが挙げられた。「平泉の文化財」（岩手県）がイコモスから登録延期勧告（08年）を受けて、11年に“仕切り直し登録”されたことに鑑み、論理の補強を図った。

しかし、推薦書提出に先立って昨年9月に開催された文化庁の文化審議会世界文化遺産特別委員会では、「武家文化を本来象徴すべき鎌倉幕府の御所が構成資産に含まれていない」という指摘もされた。日本の中世の御所は質素で、時として移転して地中に埋もれることもあったので、あえて外したのだが、それが理解されなかった。推薦書ではさらに論理を強化したものの、イコモスの現地調査で再度指摘される可能性もあり、社寺の継承との違いをどのように理解させるかが課題となっている。

イコモスは13年5月ごろ、登録、情報照会、登録延期、不登録の4段階で評価した結果をユネスコに勧告。これを踏まえて、同年6、7月ごろに開かれる世界遺産委員会で「鎌倉」と「富士山」の登録の可否が決まる見通し。登録のハードルが毎年上



「武家の古都・鎌倉」の構成資産の一つとされた鶴岡八幡宮

## 「鎌倉」を世界遺産に推薦 観光活性化の期待高まる

昇し、「一国一推薦」が定着する中で「富士山」との同時推薦に踏み切った成否が目玉される。

登録予備群である暫定リストには、このほか「彦根城」（滋賀県）や「富岡製糸場と絹産業遺産群」（群馬県）など10件が記載され、推薦の順番を待っている。

鎌倉には現在でも年間2,000万人近くの観光客が訪れるが、地元の観光関連業者の世界遺産登録に対する関心は高い。鎌倉市当局は「名越切通など比較的知名度の低かった構成資産にも注目が集まり、より深い鎌倉の魅力を多くの観光客が知ることになる」と歓迎。江ノ島電鉄でつながる藤沢市の業者も、経済波及効果への期待が高まる。その一方で、観光客激増に伴う環境悪化や交通渋滞を懸念する声もあり、関係機関には対策の先取りが望まれている。

外国人観光客に対するホスピタリティーの充実も急務だ。鎌倉は以前から外国語の案内表示の不足を指摘されてきた。外国人に優しいまちづくりは、広告宣伝をも上回る強力な“誘客の原動力”となるだろう。